

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に立てた重点取組内容は、概ね達成できた。今年度も保護者からの信頼に応えられるよう、全職員で生徒一人一人に寄り添った対応に努めていく。 ・本校の課題である特別支援教育と不登校支援については、通級が開設されたことで困り感をもつ生徒へきめ細かな配慮や支援が可能となり、特別支援や別室との連携が深まった。そのことで完全不登校だった生徒が少しずつ登校できるようになるなど良い変化も見られた。また、ソーシャルスキルトレーニングの成果も徐々に表れてきた。これらを次年度へしっかりとつなぎ、個に応じた指導・支援を充実させていく。 ・学力向上については一定の成果をあげることができた。校内研究の充実はもちろんだが、日々の落ち着いた学校生活と、学習環境作りにも努めていく。また、学ぶ楽しさや喜びを実感できるような授業改善に取り組んでいく。
2 学校教育目標	<p>「きたえ やりぬき まなびあう」 ～ともに成長しよう、対話を通して～ 生徒・教師・家庭・地域の方々との「対話」を通して新たな何かを生み出し、よりよい社会を築いていこうとする生徒の育成。</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①対話を通して、互いのよさに気づき、それぞれの特徴を認め合う関係づくり ②「総合的な学習の時間」を軸に、基山を大切に思い、より良くしていこうとする態度の涵養 ③主体的な学習者として自分の意見を築き上げ、他者と対話を行うための一人一台端末の有効活用 ④人としての成長のための、「すみそあじ」の推進 ※「すみそあじ」=(すっきり整頓・身だしなみ・掃除＝無言清掃・あいさつ・時間)

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○ゴールを意識し、生徒の主体的な学びを促す授業改善を目指す。 ○「対話の場面」を設定した課題解決的な学びとしての授業開発を行う。	○4月県調査の正答率の対比が全教科で1.00を上回る。 ○学習アンケートで、「授業を通して自分の力が伸びていると感じる」と解答する生徒の割合80%以上を目指す。	・ゴールを意識した単元づくりとめあてとまとめが正対した授業、「できた、分かった」が実感できるような授業をめざす。 ・学習活動の軸に「対話の場面」を設定し、課題を解決していく過程や自己調整力を育むような授業開発を行う。	A	・全国・県調査においては、ほとんどの教科で1.00を上回ることができた。 ・多くの授業で「対話の場面」を意識した言語活動を取り入れた授業を行っている。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動するなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・人権講演会(人権集会)や命の大切さを学ぶ機会を設ける。 ・学年全体で道徳の授業に取り組み、その充実を図る。	A	・人権週間では生徒による実行委員会を中心に充実した取組を行うことができた。 ・ローテーションとITを取り入れながら学年全体で道徳の授業に取り組み、その充実を図っている。	A	・成果指標は89%と、ほぼ目標に近づくことができた。保護者の回答結果も前回より向上しており、97%の保護者が基山中に通わせて良かったと思っという結果を得ることができた。	A	・授業での取組が生徒の表情や挨拶などの態度に表れていると思う。生徒一人一人に向き合った指導をしていただいていると感じる。	・道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートのいじめを許さない雰囲気作りや教師の指導に関する質問において、肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・生活アンケートの確実な実施、内容の把握、早期対応、早期指導を行う。 ・生徒指導体制や教育相談体制を充実させ、一人一人に寄り添った支援に取り組む。	A	・成果指標については概ね達成できた。今後も生徒指導や教育相談体制を充実させ、早期発見・早期対応に努めていく。	A	・成果指標は94%と目標を達成することができた。安全安心に過ごせていると回答した生徒も96%と前回よりも上回った。 ・今後も早期発見・早期対応に努めていく。	A	・大きな問題に発展する前に、先生方がよく見て対応してくださっている。生徒達も先生方のいじめを許さないという態度を感じとり、信頼していると感じる。	・生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・学校行事や体験活動において、見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かし、生徒の良さを共有できる取組を実践する。	A	・良いところを認められていると感じている生徒、夢や目標をもって回答した生徒はともに91%だった。 ・今後も生徒同士の良さを認め合い、共有するような取組を行っていく。	A	・成果指標はともに90%を超え、目標を達成することができた。 ・学校行事や体験活動を自分の成長の場ととらえ、前向きに取り組んだり、自分の良さを発揮しようとする生徒が増えていると感じている。	A	・学校行事や体験活動において、自分自身に自信を持ち、そのことが学習や部活動でよりがんばれる姿勢につながっていると感じる。	・主幹教諭
	○本校教育目標「きたえ やりぬき まなびあう～ともに成長しよう、対話を通して～」を念頭に、対話を通して課題を解決していく力や自己調整力を育成する。	○学校評価アンケートの「学校行事や体験活動を通して、自分が成長していると感じるか」という質問に対して、肯定的な回答を行った生徒の回答の割合が90%以上を目指す。 ○アンケートで「自分の考えをもって話し合いに活動に参加し、課題を解決したり、自分の考えを広げたり深めたりしているか」という質問に対して、肯定的な回答を行った生徒の割合が85%以上をめざす。	・学習や学校行事、部活動等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定し、活動の振り返りを行う場面を設定する。 ・「総合的な学習の時間」を軸に、課題解決的な学びの中に、授業のみならず家庭や地域の人々との対話の場面を設定する。そのことで積極的に社会に参加しようとする態度を養う。	A	・学校行事や体験活動等を通して自分の成長を感じている生徒は90%だった。どの行事も生徒が運営に携わり、活躍の場を広げることができている。 ・「総合的な学習の時間」を軸に、地域の人々との対話の場面を多く設定した活動を行うことで、地域社会の一員としての自覚をもつ生徒が育ち始めている。	A	・成果指標の自分の成長を感じていると感じている生徒は前回より2ポイント向上し、94%と目標を達成することができた。 ・自分の考えを広げたり深めたりしていると感じている生徒も87%と前回より4ポイント向上している。	A	・学習も部活動も楽しんで中学校生活を送れていると感じます。また地域行事のボランティア活動に積極的に関わり、地域の一員として頑張ろうとする生徒が多く、その姿にいつも感心している。総合的な学習の時間を通して、さらに地域社会の一員としての自覚をもった生徒を育成してほしい。	・主幹教諭
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力を育成する。	●健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上を目指す。 ○学校評価アンケートで「早寝早起き朝ごはん」に関する質問で、これを実践している生徒、実践を生徒にさせている保護者の肯定的な回答の割合が90%以上を目指す。	・学校評価アンケートに食に関する意識調査を実施する。 ・学校給食を教材に、バランスのとれた、健康づくりに特化したメニューを考案させる。 ・学習成果と生活リズムの関係について学級指導を行う。 ・「食育便り」を発行する。	B	・健康に良い食事について、生徒は91%だが、保護者は80%にとどまっている(昨年度保護者比87%)。また、給食の残量も増加傾向にあり、給食指導の難しさを感じる場面が増えている。	A	・成果指標は94%と目標を達成することができた。保護者についても向上が見られた。 ・給食週間を通して、食の大切さやありがたさについて学ぶ機会をつくることができた。	A	・とても給食がおいしく生徒たちも毎日楽しみにしているとのこと。食育の指導・周知もよくいただいていると感じる。	・栄養教諭 ・給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○働き方改革を推進する。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・県と町の部活動ガイドラインを遵守する。 ・行事等の精選を行い、ゆとりをもてる時間の確保をする。 ・管理職による計画的な年次休暇取得の声をかける。	B	・年休取得率は上がっているが、時間外在校等時間の削減にはつながっていない。	B	・時間外在校時間の削減については、全職員で協議し、できることから実行していくような取組が必要であると感じる。	B	・先生方の負担軽減のため、次年度から部活動の地域移行が進むとよいと感じます。	・教頭 ・主幹教諭
		○学校評価アンケートで、「学年・校務分掌において、自分の役割を自覚し、他の職員と連携を図っている」に対し、肯定的な回答をする職員の割合を90%以上を目指す。	・校時と部活動終了時刻を見直し、定時退勤日を確実に行う。 ・校務分掌を平均化し、チーム意識を醸成しながら計画的・組織的な業務遂行に努める。 ・教職員のメンタルヘルスチェックを実施し、管理職による細やかな声かけを行う。	B	・校時を見直したことで部活動終了時刻も若干上がるなど、退勤時間を早める取組を行っているが、目に見える成果は表れていない。 ・学年および学校全体がチームであるという意識が浸透し、協力して業務遂行ができている。	B	・成果指標は92%と目標を達成することができた。校務分掌の平均化などまだ課題は残るが、学年・学校全体のチームワークがとれており、協力しながら業務を遂行するという意識は高い。	B	・先生方の業務でないものは、できるだけ外部に委託するなどして、働きやすい職場づくりに向け、改革を進めてほしいです。校務分掌の偏りがないような体制づくり、声掛けも継続してほしい。	・校長 ・教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○生徒の特性を理解するための職員の研修を深める。	○学校評価アンケートで「特別支援教育の重要性を理解し、インクルーシブ教育の実現に向けて取り組んでいる」と回答する職員を90%以上にする。	・夏季休業中に、研修会を開催する。 ・特別支援教育推進委員会と協議した内容を全員が共有できるよう連絡体制を確立し、個に応じた寄り添った指導・支援に努める。	A	・休業中の研修は有意義であった。特別支援教育を自分事として捉え、真剣に学ぶことができた。	A	・成果指標については100%を達成することができた。 ・特別支援教育については全職員で取り組んでいくという意識が浸透している。	A	・生徒一人一人にきめ細かく対応いただいていると感じる。	
○不登校支援	○家庭との信頼関係を築くために、綿密に連絡を取り合う。 ○専門機関との相談体制を計画に行う。	○学校評価アンケートで「いじめや不登校など配慮を要する生徒に対して、丁寧に対応している」と回答する職員を90%以上にする。	・SC、SSWを交えた教育相談部会を定例化し、多面的な支援の在り方を探る。 ・教育相談部会の内容を全職員で共通理解するための体制をシステム化する。	A	・成果指標については100%だった。 ・教育相談と生徒指導、特別支援を関連付け一貫した情報共有と支援が行える体制づくりを検討していく。	A	・成果指標については100%を達成することができた。 ・今後も様々な機関と連携をしながら相談体制を強化していく。	A	・学校全体で取り組んでいただいているのがわかる。また、どの先生方も一人一人を理解し、対応に努めてあると感じる。	・教育相談担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に立てた重点取組内容は概ね達成できた。学校の対応や、学校生活の充実に対する肯定的な回答が向上していることから、全職員の生徒一人一人に寄り添った対応や学校行事を含めた日々の教育活動が信頼につながっていると感じる。 ・本校の課題である特別支援教育と不登校支援については、生徒に合った関係機関との連携が進むなど、それぞれの生徒に応じたきめ細やかな対応に努めることができた。次年度も個に応じた指導・支援を充実させていく。 ・学力向上については、「対話」を通して新たな何かを生み出し、よりよい社会を築いていこうとする生徒の育成に向けて、「総合的な学習の時間」を軸に探究的な学習の在り方を研究し、学ぶ楽しさや喜びを実感できるような授業改善に取り組んでいく。
-----------------------	---